かえるの合唱
クヮッ、クワッ～合拗音の響き

札幌市医師会
札幌清田病院

後藤　義朗（ごとう　よしろう）

先頃直木賞を受賞したのが、朝倉かすみ著の『けんぐゎい』だ。漢字表記では「圏外」となるのだが、「外」の発音に引っかかった。

狂言の『釣狐（つりぎつね）』が、別名「コンクヮイ」も呼ばれた。これは狐の鳴き声を表す。狂言では「猿に始まり、狐に終わる」と言われる。狂言師は『靭猿（うつぼざる）』の猿役で初舞台を踏み、『釣狐』で狐役を演じて初めて一人前として認められるという意味なので、狂言師にとっても重要な演目なのである。また、箏曲にも『狐会』あるいは『吼噦』と（両者ともコンクヮイと読む）と三味線の地唄の他、箏、尺八の曲がある。もともと1690年頃の地唄箏曲（三味線の曲）そして当時の歌を取り込んだ曲なので、題名も当時の発音が継承されている。

「クヮイ」との発音は、言語学的に「合拗音（ゴウヨウオン）」と呼ばれる。拗音とは、ねじれた音の意味だ。また、発音は「クワイ」、「グアイ」と二拍で発音するのではなく一拍で　[kwa]　、[gwa]と発音する。子音と母音の間に「w」が入る音が合拗音だ。現在の標準語では消失しているが、近世の日本語に存在した。この度の直木賞受賞の時代小説は江戸が舞台なので、発音は当時のままだ。

「ガイ」と発音する言葉に、咳嗽の咳、障害の害、感慨の慨、蓋などがある。しかし「グヮイ」は「外」の一字だけ[1]というので大変興味深い。

歴史的には中国の影響がある。隋～唐代の漢語から kiok（曲）、kuat（活）、ten（天）などの語を受け入れる過程で、「きょ」のような開拗音、「くゎ」のような合拗音、「ん」を獲得し、また、一杯（itpuai）などの語を受容する過程で「っ」の音を獲得した。

現代語では合拗音が直音になり区別をしていない。明治38年に国語調査委員会が刊行した音韻調査報告書によると、関東、中国ではすでに区別せず、近畿では両者が混在、北海道、北陸、四国、九州では合拗音が残っていたとある。

今では発音するのさえ難しい。そこで『かえるの合唱』を思い出した。原曲は19世紀のドイツ民謡『Froschgesang』で日本では岡本敏明が歌詞を作った[2]。「Quak quak」の部分を日本語で「クヮ　クヮ」と音訳した。これである。これが合拗音の発音のコツである。

医学用語は漢語由来の語が多い。例えば、外と科「クヮ」を合わせると「グェクヮ」と発音するのか？昭和前期までの医学用語の発音は言いにくかっただろう。

一例を患者紹介文として作ってみた。

コロナ禍で臥床傾向となり、外科での術後結果は良好だが、活動量が減少した患者さんである。回診時、帰宅願望が強い。快癒すれば可能だが。既往に冠疾患や胃潰瘍、さらに足部内踝骨折もあった。管は装着していないものの、動作は緩徐で転倒防止のため環境整備に留意し、行動観察が看護上でも必要。なお、便秘で時に浣腸対応、性格はやや頑固。

という具合で、下線部が合拗音である。筆者も何度か読み込んでみたが口が回らなかった。

発音も省エネとなる傾向がある。音韻が簡略化される例は「ハ行」にある。奈良時代以前は「ｐ」で発音、口唇が閉じる。つまり「母」はpapaとなるわけだ。平安時代に「ɸ」に変化しfafaになり、やがて江戸時代には、唇が開いたままの「ｈ」の発音で「haha」と変化した。

100年後は発音も簡素化され「タイパ」などの短縮語が通常語になっていくかもしれない。ネット語の「おは」もそのままで通用するかも。それでは敬語はどうなるのであろう。「お」を付けるだけの簡単ルールが残るだけか。もしタイムスリップできて未来人の会話を聞くと、多分チンプンカンプンで「浦島太郎状態」になるかもしれない。スマホでは「古日本語（令和版）」が作られていたりして。いやスマホはもうなくて別の通信機器だろう。日本人の人口も減っていくし、ネットでの言葉が標準語となり、方言が消えるのだ。

一方、カエルの鳴き声も違って聞こえるかもしれない。直音化され、カエルも「クヮ」から「カ」と変わる。ではカラスはどう鳴くのか？狂言では「コカァ、コカァ」と表現されるが、未来は「カー」から短縮されて「アー」になるのかな？最近、鳴き声に注目していたら「ハアー」と鳴いたカラスがいた。カラスにも方言があるが[3]、カ行音は喉に負担がかかるから、より軽減されても不思議ではない。受け止める側でも聞こえた音を簡素化しているから、文字化で簡単表記になる。

オノマトペの達人だった宮沢賢治は、一連の動きを知ったら、さぞかし嘆くことだろう。

参考

1）合拗音「くゎ」「ぐゎ」の発生から消失まで
　－ Amosapientiam　はてなブログより
2）かえるの合唱（かえるのうた）童謡の歌詞・試聴
3）【動物行動学で解説】カラスの鳴き声に「方言」がある？地域差と理由を徹底解説　｜　動物プロダクション SCIENCE FACTORY ltd.